

## 第4章 山梨県の強みと生かすべき機会

今後も、本県が選ばれ続ける観光地であるためには、首都圏に近いことなどの優位性に加え、温泉、フルーツ、ワインなど特色のある観光資源や新たな本県の強みを生かした取り組みを継続して行う必要があります。

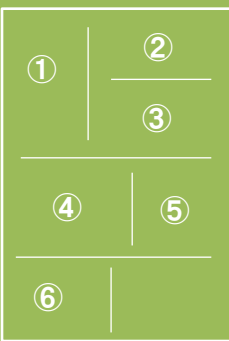
また、これらの取り組みを生かすべき機会として、令和2年(2020年)の東京オリンピック・パラリンピック、令和3年(2021年)の信玄公生誕500年などが挙げられます。

### 1. 地理的特性

- 本県は、首都東京に隣接し、都心から約90分でアクセスすることが可能です。また、大阪・名古屋と東京の中間に位置し、定番の観光コース(ゴールデンルート)として認知されています。
- 中部横断自動車道(山梨・静岡間)の開通(令和2年(2020年)内予定)により、東名高速道路、新東名高速道路と中央自動車道がつながり、太平洋の臨海地域との連携・交流が促進され、本県の産業・経済の発展とともに、観光振興にも寄与することが期待されています。
- 中央自動車道においても、渋滞が多発している小仏トンネル付近等で渋滞緩和に向けた対策が進められており、入込観光客の多くを占める首都圏からの旅行者の利便性の向上、滞在時間の延伸などが期待されています。
- さらに、リニア中央新幹線(品川・名古屋間)の開業(2027年予定)により、都心へは約25分、名古屋へは約40分で移動が可能となり、東京圏をはじめ名古屋圏、関西圏などからのアクセスのさらなる向上により、旅行者などの増加が期待されています。
- リニア中央新幹線が開業すると、東京圏、名古屋圏、関西圏の三大都市圏がそれぞれの特色を発揮しつつ一体化し、4つの主要国際空港、2つの国際コンテナ戦略港湾を共有し、世界からヒト、モノ、カネ、情報を引きつけ、世界を先導するスーパー・メガリージョンの形成され、幅広い分野で新たな価値が創出されていくことが期待されています。

## 2. 自然・景観

- 本県には、世界遺産富士山をはじめ北岳、八ヶ岳などの雄大な山々、特別名勝御岳昇仙峡などの景観美に優れた渓谷、豊かな森林などが広がっています。
- 2014年(平成26年)には南アルプスを代表する山々を中心とした地域が南アルプスユネスコエコパークに登録されました。また、2019年(令和元年)には、甲武信ヶ岳、金峰山、雲取山等の山々が連なる奥秩父主稜を中心とした地域が甲武信ユネスコエコパークに登録されました。
- 新倉山浅間公園からの景観が、「桜」「五重塔」「富士山」など、日本的でインスタ映えする風景として認知度が高まり、世界的な観光スポットとして人気を博しています。
- 本県には、新道峠など雄大な富士山を望むポイントが多数存在します。特に、冬至から夏至までの間、ダイヤモンド富士(富士山頂から昇る日の出)を見ることができるため、多くのカメラマンで賑わいます。
- 峡東地域の果樹農業は、優れた栽培技術や多様な果樹が織りなす四季折々の美しい農村景観などが高く評価され、平成29年(2017年)3月に日本農業遺産に認定されたほか、平成30年(2018年)には、峡東地域のぶどう畑の景観や歴史が「葡萄畑が織りなす風景-山梨県峡東地域-」として日本遺産に認定されています。
- リニア実験線がある本県には、リニア走行を見ることができるビュースポットがあります。また、山梨県立リニア見学センターでは、日本で唯一、時速500kmで走行する超電導リニアを間近で見ることができます。
- 本県には、信玄の隠し湯など古くから湧き出ている名湯や、山間の秘湯、立ち寄り湯など、数多くの温泉が身近にある温泉県です。
- 四季を織りなす美しい森林景観や、緑あふれる癒しの空間は、本県の魅力となっています。県では、森林文化の森などの保健休養林において、企業・団体向けに植樹活動や森林レクリエーション等の場として「クライン・ヴァルト(小さな森)」を提供しています。

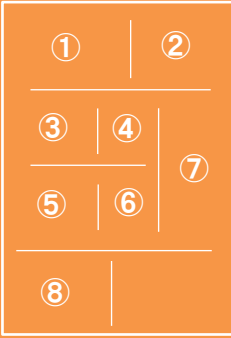
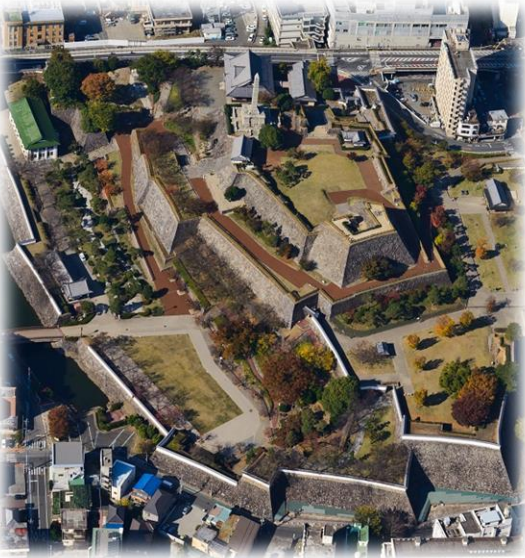


- ①ハヶ岳  
(写真提供：やまなし観光推進機構)
- ②南アルプスの山々  
(写真提供：やまなし観光推進機構)
- ③新倉山浅間公園  
(写真提供：富士吉田市)

- ④新道峠から見た富士山
- ⑤日本農業遺産  
「峡東地域の果樹農業」
- ⑥桃源郷とリニア中央新幹線  
(写真：リニア推進課)

### 3. 歴史・文化・祭り・スポーツ

- 山梨県と長野県にまたがる縄文文化について、「星降る中部高地の縄文世界-数千年を遡る黒曜石鉾山と縄文人に会う旅-」として、平成30年(2018年)に日本遺産に認定されています。
- 武田氏館跡(武田神社)などの武田信玄ゆかりの史跡や、築城期の野面積み石垣が良好に残る甲府城跡、江戸時代に吉田口登山道の起点とされ富士信仰の拠点として栄えた北口本宮富士浅間神社、国宝・大善寺本堂、国宝・清白寺仏殿、恵林寺、身延山久遠寺など、先人から脈々と引き継がれてきた文化遺産が、県内随所に残されています。
- 「種をまく人」など世界的なミレーコレクションで知られる県立美術館や富嶽三十六景に代表される貴重な歴史資料を収蔵する県立博物館など、魅力的な文化芸術に触れることができるスポットが点在しています。
- ギネスブックで世界最大の武者行列として認定された「信玄公祭り」や、日本三大奇祭の「吉田の火祭り」、「神明の花火大会」などの特色ある祭りがあります。
- 本県には、開放感溢れる雄大な自然に囲まれたゴルフ場が多数存在します。八ヶ岳南麓や富士五湖などの避暑地は標高が高く、猛暑が続く夏でもプレーがしやすい環境です。
- 富士山や富士五湖を周回したり、満開となった桃の花が咲き誇る中、健脚を競いあつたりと、本県の美しい景観を満喫できるマラソン大会やサイクリイベントが県内各地で開催されています。
- 特に、Mt. 富士ヒルクライムは、約1万人のサイクリストが参加する日本最大のヒルクライムレースであり、毎年開催されています。また、令和2年(2020年)の東京オリンピックでは、道志村と山中湖村を通るルートが自転車競技のロードレースコースに選ばれました。



- ① 武田神社  
(写真提供：やまなし観光推進機構)
- ② 信玄公祭り
- ③ 国宝大善寺本堂(薬師堂)  
(写真提供：やまなし観光推進機構)
- ④ ジャン=フランソワ・ミレー  
種をまく人 県立美術館蔵  
(写真：山梨県教育委員会)
- ⑤ 甲府城跡  
(写真提供：山梨県教育委員会)
- ⑥ 吉田の火祭り  
(写真提供：富士吉田市)
- ⑦ 神明の花火大会  
(写真提供：やまなし観光推進機構)
- ⑧ サイクリングイベント  
(写真：観光資源課)

## 4. 特産品

- 本県の農業は、恵まれた立地や気象条件などを生かし、農業生産額の5割以上を占める果樹を中心に、生産性の高い特色ある農業が営まれています。特に、ぶどう、もも、すももの生産量は日本一を誇るとともに、県では消費者に人気の高いシャインマスカットの特性を引き継ぐ赤系ぶどうの開発を進めており、今後の産地化を目指し取り組んでいます。また、野菜ではスイートコーンや夏秋ナス、クレソンの生産量は全国上位に位置しています。
- 本県は、国内におけるミネラルウォーター発祥の地です。富士山や南アルプス、八ヶ岳など、国内屈指の名峰に囲まれた山梨は「天然の水がめ」と呼ばれるほど豊富な水に恵まれた地であり、全国シェアの4割を占める一大産地となっています。健全な水環境を守り育てる「育水」という考え方に基づき、「天に選ばれし、名水の地。山梨。」として、やまなし「水」ブランドの確立を目指しています。
- 本県のワイン、日本酒、ジュエリー、織物、印伝、和紙などは、国内外の展示会への出展等を通じて高品質が評価され、「やまなしブランド」として浸透するとともに、産地としての知名度が国内外で高まっています。
- 日本を代表するワイン産地として、県内には、80を超えるワイナリーがあり、古くから栽培されてきた甲州ぶどうで造られた「甲州ワイン」は、国内のみならず海外でも高い評価を得ています。
- 日本酒は、富士山、南アルプス、八ヶ岳などの良質な地下水と、内陸型の冬の厳しい気象条件に恵まれ、伝統を忠実に守りながらも、新しい日本酒造りを行ってきたところ、水系ごとに多様な味わいを醸し出す特徴が高く評価されています。
- ジュエリーについては、甲府を中心に、宝石の研磨加工や貴金属加工、国内外への流通などジュエリーに関する業務が一つの場所で行われている世界でも珍しい集積産地です。
- 織物は、独特の光沢や風合いで江戸時代より人々の心をとらえた「甲斐絹（かいき）」をルーツとしています。郡内地域では、甲斐絹の伝統技術「先染め・細番手・高密度」を受け継ぎ、織物生産が行われています。
- 伝統工芸品は、甲州水晶貴石細工、甲州印伝、甲州手彫印章が国から指定を受け、12品目が県から郷土伝統工芸品の指定を受けており、山梨の風土と人々の暮らしの中で生まれ、受け継がれてきています。
- 本県には、豊かな自然が育む四季折々の食材を生かしたほうとうや鳥もつ煮、あわびの煮貝、ころ柿など多くの郷土食等があります。こうした、本県の食文化を形成する郷土食等のうち、特に次世代に継承すべきものを「やまなしの食」として認定し、地域活性化等につなげていくこととしています。



- |   |   |                             |  |
|---|---|-----------------------------|--|
| ① | ② | ①シャインマスカット<br>(写真：販売・輸出支援室) | ④三分一湧水<br>(写真：観光企画課)<br>ミネラルウォーター生産量<br>日本一を誇る山梨 |
|   | ③ | ②もも<br>(写真提供：やまなし観光推進機構)    | ⑤日本ワインコンクール 2019<br>山梨県産金賞ワイン<br>(写真：地域産業振興課)    |
| ④ | ⑤ | ③貴陽(すもも)<br>(写真：販売・輸出支援室)   | ⑥ジュエリー(Koo-fu2018)<br>(写真：地域産業振興課)               |
| ⑥ |   |                             |  |

## 5. 生かすべき機会

### (1) 令和2年(2020年)東京オリンピック・パラリンピックの開催

東京オリンピック・パラリンピックは、世界中から注目を集める大会であり、東京に隣接する本県にとって、山梨の魅力を発信し、多くの旅行者を誘致する絶好の機会となります。

### (2) 令和2年(2020年)東京オリンピックの自転車競技ロードレースコースの一部に道志村及び山中湖村が決定

東京オリンピックにおける自転車競技ロードレースは、道志村と山中湖村を通るコースで開催されます。

これを好機と捉え、ロードレースコースや周辺観光の魅力をオリンピック観戦客やサイクリストに訴求し、本県への一層の誘客促進を図ることが求められます。

### (3) 令和3年(2021年)信玄公生誕500年

令和3年(2021年)には、武田信玄公生誕500年を迎えるとともに、信玄公祭りも、この年に第50回を迎えます。

外交、軍事、内政と全てにすぐれた戦国武将で、全国に多くのファンを持つ信玄公の記念の年となる信玄公生誕500年は、甲斐の国山梨の歴史・文化を多くの人に知っていただく絶好の機会となります。

### (4) 日本遺産等の認定

平成30年(2018年)、ぶどう畑の景観をテーマとしたストーリーである「葡萄畑が織りなす風景―山梨県峡東地域―」(山梨市、笛吹市、甲州市)と中部高地の縄文世界をテーマとしたストーリーである「星降る中部高地の縄文世界―数千年を遡る黒曜石鉾山と縄文人に会う旅―」(甲府市、北杜市、韮崎市、南アルプス市、笛吹市、甲州市、長野県岡谷市、諏訪市、茅野市、長和町、下諏訪町、富士見町、原村、川上村)が日本遺産<sup>※</sup>に認定されました。

※日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって整備・活用し、認知を広め、地域の活性化を図るもの。



## ・「葡萄畑が織りなす風景」



○構成市：山梨市・笛吹市・甲州市  
 ○ストーリーの主な構成文化財  
 ・葡萄畑 ・木造薬師如来像 ・甲州式棚栽培 ・ルミエール旧地下発酵槽

### 【ストーリー概要】

葡萄栽培は甲州市勝沼において奈良時代に始まったと伝えられ、先人たちの知恵と工夫により峡東地域に広がりました。葡萄畑は、季節ごとに様々な風景を魅せてくれます。

## ・「星降る中部高地の縄文世界」



鋳物師屋遺跡出土品  
土偶「子宝女神ラヴィ」



鋳物師屋遺跡出土品  
人面土器



安道寺遺跡出土品  
水煙文土器



津金御所前遺跡出土品  
出産土器

○構成市：甲府市・北杜市・韮崎市・南アルプス市・笛吹市・甲州市  
 （長野県と共同申請）  
 ○ストーリーの主な構成文化財  
 ・深鉢形土器 ・一の沢遺跡出土品 ・酒呑場遺跡出土品

### 【ストーリー概要】

日本の真ん中、八ヶ岳を中心とした中部高地には、ほかでは見られない縄文時代の黒曜石鉱山、芸術性の高い土器や土偶があります。この地域で繁栄した縄文人を身近に感じることができます。

また、峡東地域は、我が国におけるぶどう栽培の発祥の地ともいわれており、少なくとも 800 年以上前からぶどう栽培が行われてきました。以来、本地域では、養分や保水力が乏しく農業に不利な傾斜地において、ぶどうやももをはじめとする多品目の果樹を栽培し、品質の高い果実の生産を維持するとともに、果実加工や農業の観光利用などを組み合わせることにより複合的果樹システムとして発展してきました。

こうした先人の不断の努力により、今日まで、多様な植物(果樹)遺伝資源が保全されているとともに、里地里山の生態系や景観が良好に保たれており、農業の生産性と生態系との共存を維持してきた独創的で持続性のある農業システムが構築されています。

平成 29 年(2017 年)3 月に、日本農業遺産\*の制度創設後初めての認定が行われ、峡東地域の果樹農業が第 1 回目に認定された 8 地域の 1 つに選ばれています。こうした日本遺産や日本農業遺産を地域振興や観光振興に活用していく必要があります。

※日本農業遺産とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり形づくられてきた伝統的な農林水産業と、それに関わって育まれた文化、ランドスケープ、生物多様性などが一体となった農林水産業システムのうち、世界及び日本における重要性、並びに歴史的及び現代的な重要性を有するものに対して農林水産大臣が認定を行うもの

## (5) 中部横断自動車道の開通

令和2年(2020 年)内には、中部横断自動車道のうち、双葉 JCT(中央自動車道)と新清水 JCT(新東名高速道路)を結ぶ区間の全線開通が予定されています。新東名高速道路との接続により、中京圏から本県への旅行者の増加が見込まれます。

本県を訪れた旅行者が県内各地を周遊し、より長く滞在していただくためには、地域の資源を磨き上げ、魅力ある観光地づくりを行うとともに、そうした地域の魅力を発信していくことが重要です。

特に本県への玄関口となる峡南地域は、歴史ある文化資源や優れた自然景観などと併せて、平成 30 年(2018 年)にTV放送されたアニメ「ゆるキャン△」の舞台となるなど新たな観光資源も活用することで、旅行者の増加等、更なる進展も期待できます。中部横断自動車道の開通などを見据えながら、地域の魅力を国内外に広く発信し、更なる観光振興を図る必要があります。

## (6) アウトドアブーム

JTBの「2017 年の旅行動向見通し」では、旅行形態や宿泊形態の多様化が進んでおり、特に、宿泊では、ホテル並みのサービスと豪華さを兼ね備えたキャンプ施設など、宿泊そのものに、田舎暮らしやユニークな体験を求めるニーズが高まっています。

本県では、豊かな自然を有し、アウトドアなどが盛んなことや、来県時の交通手段の約7割が自動車であることから、オートキャンプ場はもとより道の駅や日帰り温泉施設等の駐車場の一面を専用エリアとするRVパークにキャンピングカーなどで滞在し、周辺の温泉施設や地元の食事処などを利用しながら、ゆったりと滞在し、旅を楽しむ人も増えています。